

2024年度 友愛労働歴史館事業計画

3年に及ぶ昨今のコロナ禍も、第5類に分類されるとともに円安も相まって、インバウンドも確実に増加。ホテル業・飲食業・観光娯楽業等のサービス業は回復局面に置かれている。友愛労働歴史館においては、コロナ前は年間来館者数1000人超えを維持してきたが、コロナが明けてからは実質400人の来館者となっている。2025年3月末を節目として、友愛労働会館の使命を果たすべく、新規事業として出張講演に積極的に取り組んでいくこととしたい。併せて友愛労働歴史館はこれらの種々の課題を受け止め、2022年度から当面の間、従来の活動を縮小してⅠ展示会・講演会活動、Ⅱ資料の収集・管理作業、調査・研究活動、Ⅲ情報発信・PR活動などに取り組むことを継続する。

I 展示会・講演会活動について

1. 展示会（常設展・企画展）活動

(1) 常設展について

常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟（戦前）を中心とする」は、必要なメンテナンスを行いつつ、同一テーマで引き続き通年開催する。

(2) 企画展について

当面は休止する。

2. 講演会活動

友愛労働歴史館は企画展と連動させた講演会・労働講座を単独で、もしくは労使関係研究協会や友愛会創立を記念する会などその他の団体と共催してきた。しかし、3年に及ぶ新型コロナウイルス・パンデミックによって、2021年度以降は中止した。このような状況と当館の現状を踏まえ、当面は休止する。

3. 友愛労働歴史館事業の新たな取り組み

友愛会から同盟、連合までの「日本労働運動の100年余」の歴史継承のため、出張講演に積極的に取り組む。

(1) 友愛労働歴史館の使命

①友愛会以来の日本の労働運動、②友愛会ゆかりの政治活動、③エテリアンゆかりの社会運動、に関する史料館をめざしている。「歴史は未来を見る鏡である。」と言われる様に、労働運動発展のために貢献していただいた多くの先達の足跡を心の糧に、今日をみつめ、明るい未来を創造する。中でも鈴木文治のメッセージは「人間性と職業能力の向上」、松岡駒吉のメッセージは「産業人論と健全なる労働組合主義」であることを紹介し、その時代を貫く普遍性を明らかにしている。これらの歴史を守り、伝えていくことが使命だと考える。

(2) 現状の歴史館の課題

- ①展示室の見学者の減少傾向が続いている。
- ②友愛会の歴史認識が薄れていきつつある。
- ③中小組合では多人数で地方から会館(東京)に見学に行くのは困難である。

(3)出張講演の考え方

項目	従来	2024年4月以降	変更の有無
出張講演の姿勢	原則、無	積極的に請負う	有
出張の旅費交通費	講演依頼者持ち	友愛労働歴史館持ち	有
資料印刷	講演依頼者が印刷	講演依頼者が印刷	無
パワーポイント	講演依頼者が準備	講演依頼者が準備	無
講演料	無料	無料	無
講演時間	特に決めてない	最低60分以上	有
最低受付人員	特に決めてない	5名以上	有

(4) 講演の演題と時間

[定番コース]

(1) 解説 15分コース<導入編・一般向き>

モニュメント紹介(石碑、煉瓦塀、3会長胸像)

(2) 解説 20分コース<基礎簡潔編・一般向き、職場役員及び執行委員向き>

超コンパクト結論

友愛労働歴史館の友愛会、鈴木文治、松岡駒吉の3つのメッセージ

(3) 解説 60分コース<基礎・簡潔編・一般向き、職場役員・執行委員向き>

ようこそ友愛労働歴史館へ(日本労働運動発祥の地)

第一部 労働運動前史 福沢諭吉とユニテリアン

第二部 戦前の労働運動 1897年(明治30年)～1940年(昭和15年)

第三部 戦後の労働運動 1946年(昭和21年)～

第四部 友愛会、鈴木文治・松岡駒吉の3つのメッセージ

(4) 解説 90分コース<基礎編・執行委員及び職場役員向き>

常設展示スライド「日本労働運動の100年余」

第1部 労働運動前史—福澤諭吉とユニテリアン、惟一館—

第2部 戦前の労働運動 1897年～1940年

(1) 日本労働運動の曙 労働組合期成会の誕生 1897年

(2) 日本労働運動の源流 友愛会の創立 1912年

(3) 友愛会から総同盟へ 1912年～1940年

第3部 戦後の労働運動 1946年～

第4部 友愛会、鈴木文治、松岡駒吉の3つのメッセージ

(5) 解説 90分コース<詳細編・執行委員向き>

日本労働運動の100年余から民主的労働運動を探る

同上の(4)の詳細バージョン

[オプションコース]

(1) 生産性運動三原則 20～30分

発足当時 1955 年、生産性本部 50 周年 2005 年、日本生産性本部 65 周年 2020 年までの変遷

(2) リーダーシップ論の基礎 20～30分

実践版・リーダーシップの原型と実践

(3) 労使関係論「コーポレートガバナンス」 30分～60分

企業統治のあり方、健全な摩擦があつてこそ健全な労使関係がある

(4) 労働組合にとって何故政治が必要なのか 60分以上

歴史的経過から、社会民主主義・民主社会主義の必然性と政治「反自民・非共産主義」の必要性を探る

* 時間や講演内容については、すべて応相談。

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は所蔵品の安全な管理と保管のため年度内に地下倉庫の書庫としての改装、所蔵品のデータ管理に年間を通し、取り組んでいくとともに、必要な調査・研究活動に従来通り取り組んでいく。

1. 資料の収集・管理

友愛労働歴史館は連合資料室、社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）と連携し、①友愛会から同盟までの民主的労働運動、②社会民衆党から民社党までの民主的社会主義運動、③福澤諭吉や安部磯雄らユニテリアンゆかりの社会運動に関する資料の収集・管理に取り組む。

友愛労働歴史館には今まで個人・団体から寄贈を受けた資料が未整理状態にあり、当館倉庫（友愛会館地下1階、同2階）に保存している。2024年度には、書庫として相応しい地下倉庫の環境改善を行い、所蔵品のデータ管理・保全に向け年間を通し、整理作業に取り組む。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は、常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の二つの常設委員会を設置しており、これは継続する。当面は、必要に応じて調査・研究活動を行う。また、井堀繁雄研究会では、井堀繁雄（労働運動家・協同組合活動家・政治家、日本労働会館理事長）が残した手帳のデジタル化作業を終えており、今後必要な調査・研究を行う。

Ⅲ情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館は情報発信・PR活動として、2024年度に以下の取り組みを行う。

1. インターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信
2. 友愛労働歴史館ホームページでの情報提供・PR活動
3. X（旧公式ツイッター<@yuairekishi1912>）の活用によるPR活動
4. インターネットのアドレス登録者約1000名を対象とする情報提供、PR活動

Ⅳその他

1. NPO法人働く文化ネット（総評会館）の労働映画鑑賞会（毎月1回・第二火曜日）に参加、協力していく。
2. 労働運動・社会運動関連資料のリユースに取り組んでいる労働資料協（社会・労働関係資料センター連絡協議会）の活動に参加していく。
3. 友愛労働歴史館が所蔵する資料を活用し、民主的労働運動や民主社会主義運動、ユニテリアンゆかりの社会運動に関する研究者の調査・研究活動に協力していく。

以上